

# I 博物館事業

## 1 常設展示

### 常設展示の構成

展示ホール 一宮市の見どころ案内

真清田神社復元模型 妙興寺復元模型 展示替えコーナー 一宮市博物館収蔵品検索コーナー

#### 展示室1 いちのみや歴史絵巻

一宮市の名前は、尾張国の一宮である真清田神社に由来する。この地域に人が住み始めたのは縄文時代中期にさかのぼり、やがて木曾川の雄大な流れのもたらす豊かな水と土壌に支えられ、長い歴史を刻んできた。ここでは、各時代の代表的な資料の展示を歴史絵巻と名付け、その始まりから今日までの一宮市の成り立ちを概観する。

縄文時代 尾張平野のあけぼの

弥生時代 稲作のはじまり 環濠集落（猫島遺跡）

古墳時代 豪族の台頭 前方後方というカタチ（西上免遺跡） 人麿塚・戸塚の七つ石 岩塚古墳・石棺

古代 寺院の建立と文字の普及 護岸施設と祭祀（大毛沖遺跡）

中世 地方武士の活躍 中世の墓制 法圓寺中世墓 一宮市域の城と武将たち 黒田城と仁王胴具足

江戸時代 尾張藩による支配 尾張絵図 北方代官所復元模型

近現代 尾張平野の中核都市として 毛織物産業の発展 濃尾地震と一宮市域 一宮空襲 戦後の復興と発展

#### 展示室2-1 自然と暮らす

一宮市の北西に流れる木曾川は、長い歴史の間に何度も洪水を引き起こしながら、この地域に扇状地や自然堤防、後背湿地の組みあった地形を生み出した。人々は堤防を作り水害と戦う一方で、それぞれの土地の特性にあわせて稲作や棉作、養蚕などを営んできた。また、冬には北西から「伊吹おろし」と呼ばれる冷たく乾いた風が吹き、この風を利用して作られる大根切干はこの地域の名産品となった。ここでは、悠久の流れのもとに暮らしてきた人々のようすを、その自然の成り立ちから紐解く。

妙興寺の森 一宮市の地形と地質 島畑の風景 田畑を耕す 大根切干をつくる

#### 展示室2-2 人と暮らし

一宮市域は、古くは鎌倉に向かう鎌倉街道が通り、江戸時代には美濃路や岐阜街道、巡見街道の通る交通の要衝であった。街道沿いの村々には市が立ち、人々は農作物や手工芸品を売り、暮らしに必要なものを買っていた。また、街道だけでなく河川を利用して運ばれる物資や人の流れもあった。ここでは、人々の暮らしを結び目に、街道や水運によるものの流通と、織物をはじめとする手仕事や衣食住を支えた道具を紹介する。

街道と市 街道を歩く 川を往く 筏による運材 川と暮らし 紡ぎ織る 養蚕の仕事

職人のわざと道具 遺跡にみる鍛冶 清郷遺跡・小鍛冶遺構 鍛冶の道具 竹細工の歴史 竹細工の道具

暮らしと道具（展示替えコーナー）

#### 展示室2-3 祈りと文化

人々の暮らしのそばには常に祈りがあった。弥生時代の赤く塗られた優美な土器や、かつて美しい音色を響かせていたであろう銅鐸は、太古の人々の祈りのありようを物語る。また、尾張国一宮の真清田神社や、妙興寺、長隆寺などの仏教寺院に伝わる宝物には、幸福や救いを求める人々の願いがこめられている。やがて江戸時代になると、漢詩や南画といった文人文化がこの地域にも花開いた。ここでは、木曾川の豊かな流れに生まれ、尾張平野に広がった祈りと文化の世界を紹介する。

縄文時代の祈りの空間 赤への憧憬 鳴らす銅鐸 青銅器の輝き 水辺の祭祀 真清田神社 仏教の広がりと文化 展示替えコーナー

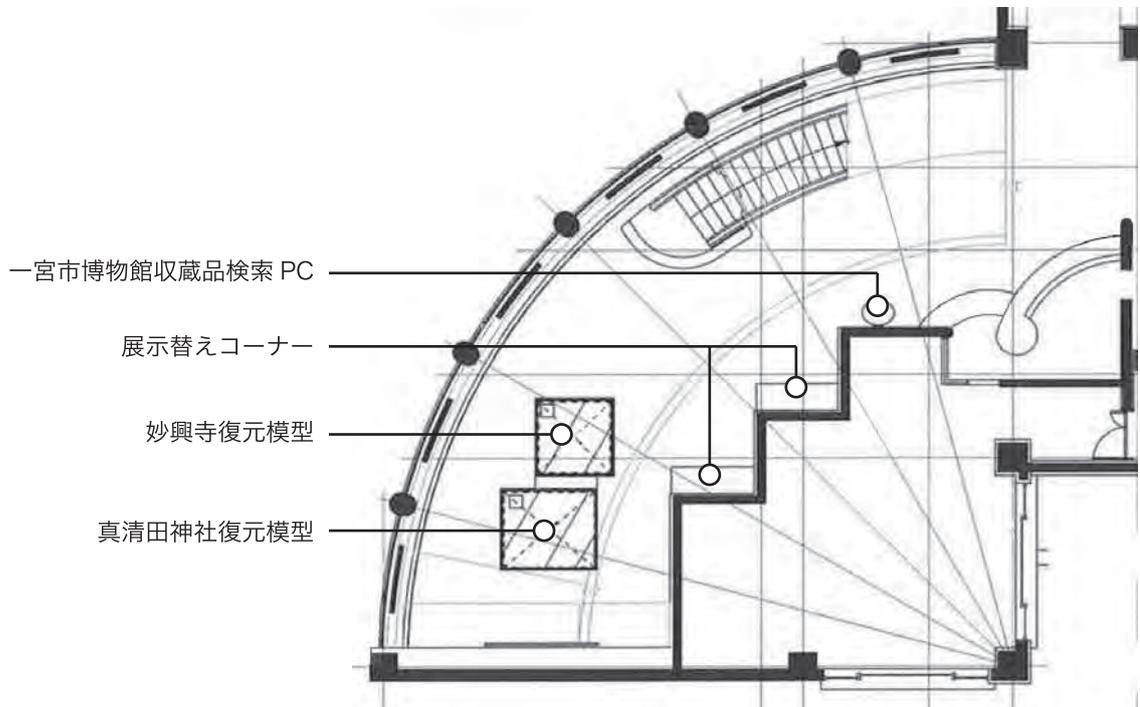
#### 学習室 たいけんの森

学校休業日の土・日曜日を中心に、さまざまなテーマを体験ができるものとする。体験を通じて学ぶものとするが、歴史的背景などの教育普及を必ず付加する。さらに、学校教育のカリキュラムに合わせるなどの工夫をし、より利用しやすくする。

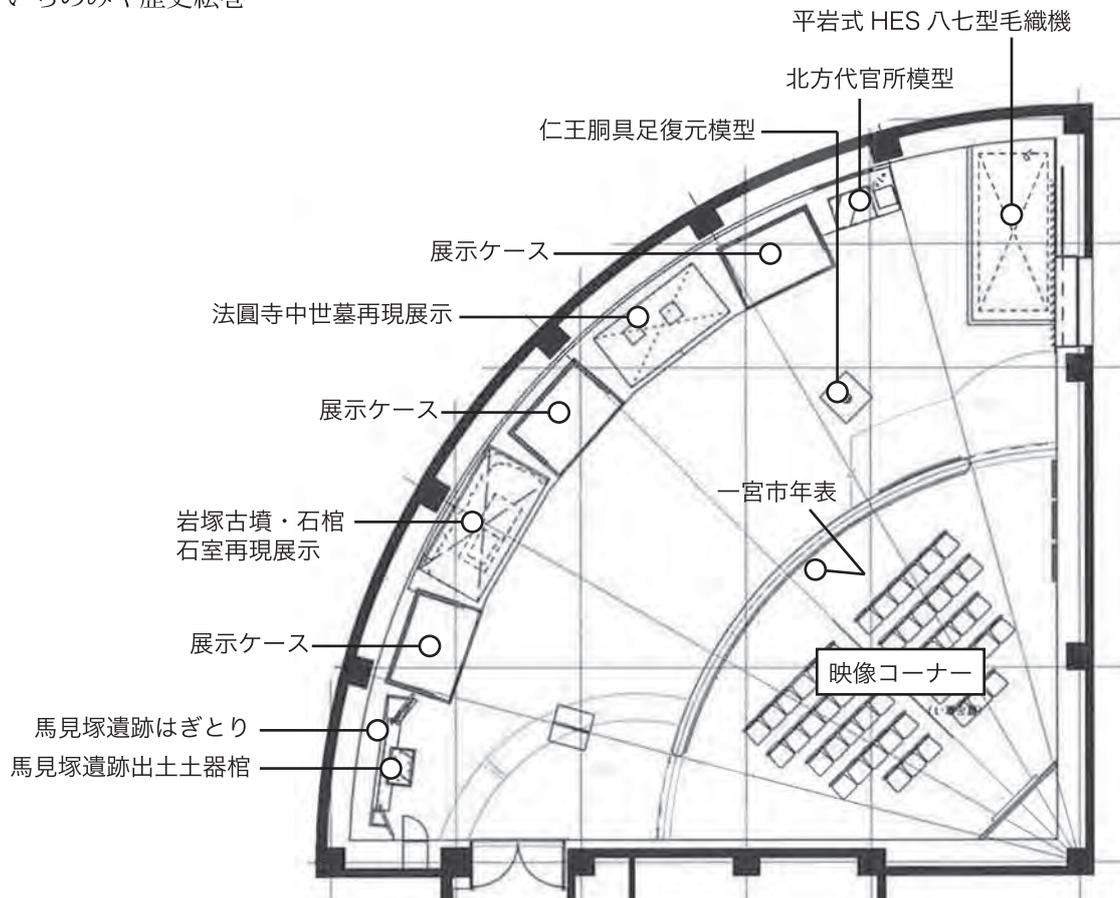
具体的には、自由に利用できる体験キットの設置、土日祝のわくわく体験、尾張もめん伝承会ボランティアによるはたおり・糸つむぎ体験の三本柱で運用を行う。

体験キット 土器パズル（4種類）、一宮市連区パズル、昔の台所キット、ぐいち（お手玉）、わらざうり、洗濯板など

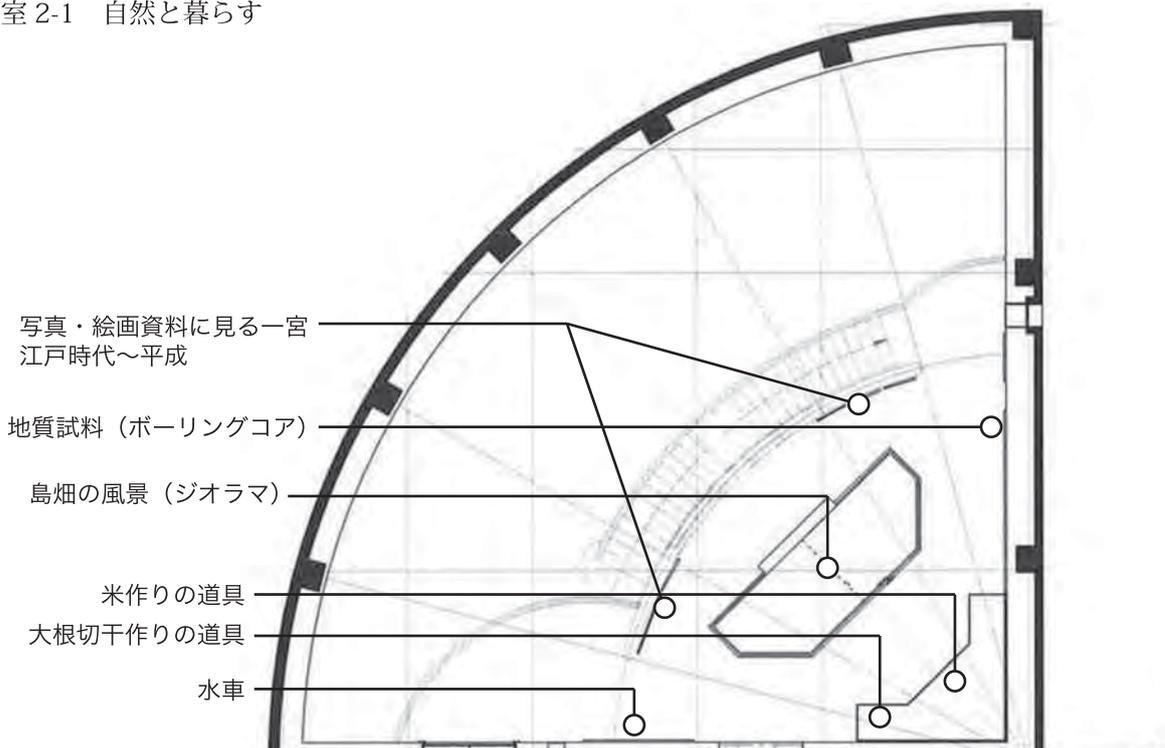
■ 展示ホール 一宮市の見どころ案内



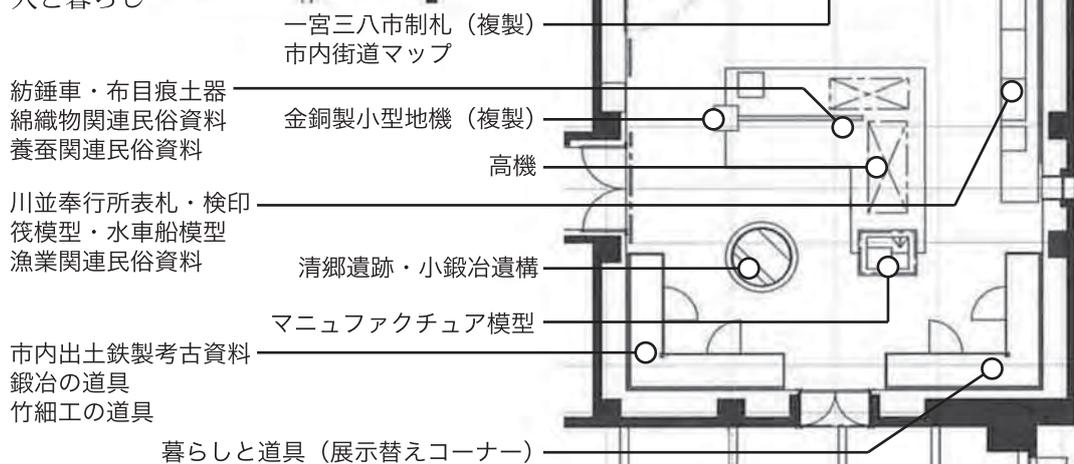
■ 展示室 1 いちのみや歴史絵巻



■ 展示室 2-1 自然と暮らす



■ 展示室 2-2 人と暮らし



■ 展示室 2-3 祈りと文化

